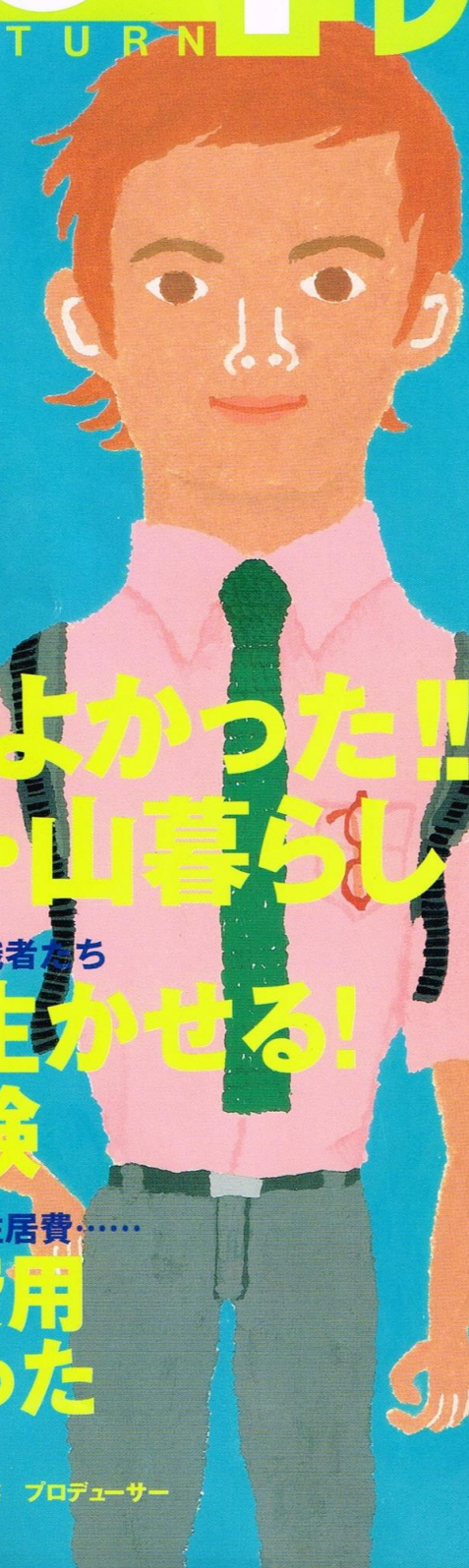


エリア特集:東北(福島県^{スペシャル}付き)、北陸、島根県 「社長の右腕」募集企業特集

地方で暮らす U-TURN B-i n g I-TURN



地方の仕事情報満載
2002・8・30 夏号
Bing 臨時増刊
Uターン【ターンビーイング】

本誌掲載企業と東京であえ
「Uターン」ターンフェア
8/2・3: 池袋サンシャイン
シティ

日本中に転職しよう

エリア特集

東北(福島県^{スペシャル}付き)
北陸、島根県

エリアクローズアップ

長野県諏訪湖周辺

求人特集

「社長の右腕」募集企業
地方の成長企業

求人トピックス

ソニーセミコンダクタナ
州が半導体設計エンジ
アを大募集

心臓ペースメーカー等の医療
機器販売商社ゲッツブラザー
ズが島根県で営業職を募集

時間を気にせず
興味ある企業に一発アクセス

らくらく応募メール
<http://www.isize.com/i-turn/>
らくらく資料請求ハガキ付き

子供と妻が語る

移住してよかった!! 海暮らし・山暮らし

業種・職種を飛び越えた転職者たち

いろいろ生かせる! 前職の経験

面接交通費、引っ越し代、住居費……

U・Iターン費用 私はこう削った

巻頭
Interview

大谷由里子 吉本興業 プロデューサー

RECRUIT



秋田県阿仁町へ92年9月に1ターン
蔵本光喜さん一家の場合

家族構成

妻・智子さん37歳、長男・裕輔さん19歳、
二男・光司さん12歳、長女・悠香さん10歳
と光喜さん



再出発をかけてマタギの里へ。 山暮らしで大切なものに気付いた

地図を広げて 新天地を探す

91年、蔵本光喜さんは、毎晩、地図を広げて見入っていた。妻の智子さんは、「引越しても考えているのかな」と薄々は感じていたが、まさか山暮らしを計画しているとは思ってもみなかったという。

光喜さんが都会脱出を考え始めたのは、90年前後から。仕事第一で生きてきて、ふと振り返ると、「妻は随分と物静かな人に変わり、子供は私に向かって愛想笑いをする」ようになっていて、がく然としたという。家庭に漂う沈滞ムードを払拭するかのよう、彼は休日のたびに家族を誘ってキャンプに繰り出す。共同作業を通して一体感を味わうと、妻は昔のように陽気に笑い、子供は伸びやかになっていくのが分かった。ささやかな幸福、これが当時の光喜さんを支える唯一のよりどころだった。

振り返るきっかけは、皮肉なことに脱サラして興じた会社が傾きだしたところ。それまでの光喜さんは、「いろんな人が周囲に集まってきて、毎晩のようにスナック通い。よく遊んでいた」という。ところが、会社の景気が悪くなると、チャホヤ持ち



「いいところだけど、刺激がないのが難点かな」と裕輔さん。「将来の道を見つけるためなら、都会へ出て行ってもいい。でも、疲れたらここに戻っておいで」と智子さんは見守る

上げていた人々はクモの子を散らすように一斉に消えていき、あとには心配顔で見守る家族だけが残った。

91年8月、末っ子の長女が誕生し、子供を育てる環境についても考え始める。そして、ついに光喜さんは、「秋田へ、マタギの里へ移住したい」と、妻に告白。このときの様子を「妻は『え？ うそ！ ……でもい

いよ』とあっさり了解してくれた」と彼は言うが、智子さんによれば、「反対したって、私に言った時点でほぼ決めているんだもの、仕方がないわ(笑)」ということになる。

**体当たりの転職活動。
そして山暮らしへ**

とにかく移住に関して家族の同意

が得られれば、あとは職探しだ。光喜さんは秋田県内の企業情報を集めることから始め、興味のある企業に直接アタック。電話をかけると、面接に来るように言われ、その場で採用が決定した。この秋田行きには、智子さんも同行した。

「電気も水道もない所だと聞かされていたので、恐る恐る来てみたら、ど



自宅は3LDKで家賃1万3800円の町営住宅。隣が小学校、会社へも車で約10分と便利だ。「7年後には払い下げになる約束です。庭を畑にして野菜でも作りたいですね」と光喜さんは言う

「古い伝統と独特の価値を継承してきた狩人の集団、マタギ。その後継者として、この森山で、この日は、控左衛門のクリーニング運動に参加した。中腹にあるキャンプ場まで、ハルキニ。」

「春は山菜、夏は清流釣り、秋はキノコ狩り、冬はスキーと、この山は年に何回かの山菜狩りになっています」と光喜さん

お先に  暮らし

時間がたっぷりあれば、 精神的ゆとりが生まれる



蔵本光喜さん[49歳]

1952年神奈川県生まれ。情報処理技術の専門学校卒業。寝具メーカーで社員教育を担当しているときに、訪問販売会社にヘッドハンティングされる。トップセールスとして活躍するが、88年脱サラして通信業の代理店を起業。一時は隆盛を極めるものの、バブル崩壊とともに赤字経営に。92年9月、心機一転、秋田県へ1ターン。現在、大手楽器メーカー系列のピアノ部品製造会社に勤務する。

マタギの里に暮らして10年。移住していちばん変わったのは、私かもしれません。常に興奮状態のような忙しい都会生活の中では、大切なものをつい見失いがちですが、こちらでは時間がたっぷりあるので、折に触れ、「家族っていいな」と思う精神的なゆとりが生まれました。仕事→面倒だった私が、調理や掃除をするようになったし、子供会や地域の行事にも参加するようになりました。ただし、田舎の職場は、不満があっても「言わずもがな」の雰囲気があり、ときどき誰かに無性に語りたくなる。そういうときは、ネットで呼び掛けた田舎暮らしの仲間聞いてもらって留飲を下げるんです(笑)。



「最初戸惑ったことばかり。外出しようとする」「どちらへ？」と聞かれるし、地域の行事も頻繁にあるので、うっとうしいなと思ったりしました。でも半面、みんなとても親切だし、話し好き。すぐに話の輪に引っ張り込まれますよ(笑)」「智恵さん」移住後の光喜さんの生活は激変した。朝は6時に起床し、家族全員で朝食を食べて7時半に出動。夕方は遅くとも17時半には帰宅し、犬の散歩を終え、19時には家族と一緒に夕食のぜんを囲む。健康的な生活だ。「山の暮らしは多少不自由だけど、四季の楽しみがある。雪の降る夜の静寂や、満天の星、雨のしずくを滴らせたこすえなど、1ターンして初めて知った自然の美しさです。都会脱出は正解だったと思っています」と、光喜さんは満足そうに語った。

